



第10回筑豊呼吸器RENKEIの会 大盛況で終わることが出来ました。ご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。

呼吸器内科ローテーションを終えて ～呼吸器診療を通じて学び、感じたこと～

飯塚病院 緩和ケア科 後期研修医 木村 衣里



木村 衣里
緩和ケア科
後期研修医

2017年9月～11月末まで呼吸器内科にて研修をしておりました木村 衣里と申します。私は当院の緩和ケア科に所属しており、通常は緩和ケア病棟や一般病棟で癌の疼痛緩和や症状緩和、治療方針や患者さんとそのご家族の暮らしに関する意思決定をお手伝いをしています。また、院内だけではなく、在宅での緩和ケアにも携わり、潁田病院をはじめとした在宅生活を支える医療機関と連携し、在宅医療の研修もさせていただいております。病院内での医療しか見たことなかった私にとって、在宅医療は大変新鮮であり、地域の患者さんの生活を支えてくださっているのは、地域の開業医の先生方なのだと体感しました。

緩和ケア科は、呼吸器内科から紹介いただくことが多く、呼吸器疾患に対してもっと勉強したいという思いが年々強くなっていました。また、私は、夜間の救急車対応や時間外外来にも従事していますが、そのたびに、呼吸器内科医の先生方の迅速な判断力やご助言に助けられていました。そこで、呼吸器内科 部長の飛野先生、緩和ケア科 部長の柏木先生にご協力いただき、2ヶ月間呼吸器内科で勉強させていただくことができました。

実際にローテーションを始めると、呼吸器内科の専門性の高さ、そして対応する疾患の幅広さに、勉強になることばかりでした。また、ローテーション中には呼吸器外科の先生方からもご教授いただく機会もあり、大変有難かったです。医学的な知識はもちろんですが、さらに勉強になったのは、呼吸器病センターの先生方の姿勢でした。癌の診断、治療をはじめとした重い責任を伴う決定を日夜繰り返し、毎日遅くまでカンファレンスを重ねていらっしゃいます。診断から治療までじっくり時間をかけて、良い知らせも悪い知らせも患者さんと共有しながら共に歩まれます。このように大切に治療してこられた患者さんを、私達緩和ケア科にご紹介くださっているというプロセスの中に身を置けたことは、今後の緩和ケア科での医療にも生かせると感じています。

現在、米国の緩和ケアは、癌だけでなく心不全、間質性肺炎、ALSなどの慢性疾患にも適応されています。日本にも遅からず、その時代が訪れると考えています。今後、医学知識のup date をする勤勉な医師であるのはもちろんのこと、呼吸器専門医から「緩和ケアの観点から、一緒に患者さんを診ないか？」と気軽にお声掛けいただけるような親しみやすい緩和ケア医を目指し、共に沢山の患者さんへより良い医療を提供していけたらと思います。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

呼吸器内科 Topics 「飯塚から世界へ!!」



霧野 広介
呼吸器病センター
呼吸器内科

呼吸器内科の覇野です。本格的に寒くなってきた今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか。大袈裟な題名で大変恐縮なのですが、わたしたち呼吸器内科医にとって、実はこの10～11月は「国際学会」のシーズンなのです。わたし自身、医師となり飯塚で勤務し10年ほど経ちますが、医師になりたての頃は「国際学会」に参加するなど他人事以外なものでもない、おおかた大学病院の偉い先生方が

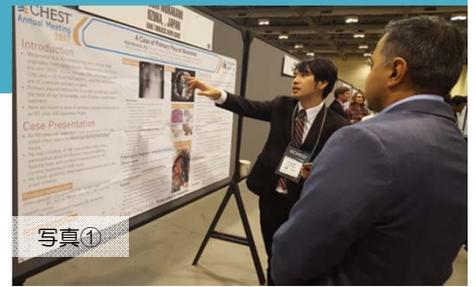
出席される集まりなのだろうとばかり思っておりました。近年では、「後期研修医は年に一度は国際学会に出席する」ことを科の目標として掲げ、お互いの業務を支え合う体制ができ上がった結果、実際にその目標を達成するまでになりました。初めて国際学会に出席した当時のことは今でも覚えています。学会のスケールの大きさに驚きつつ、人種を越え飛び交う英語にとまどいながら、それでも自分の発表が世界の人に伝わりうることを知った感動…!!自分自身の価値観がぱっと広がるような感覚を覚えたことを思い出します。同時に英語をがんばらねば、とも思い知らされたわけですが(笑)後期研修医という若い世代にして、海外で発表するという貴重な体験を当科は大切にしています。この経験をもとに、近い将来、飯塚から世界に羽ばたくドクターが誕生するかもしれません。

写真① 10月にカナダはトロントで開催されたCHEST annual meetingから。村上先生、堂々としたプレゼンでした。

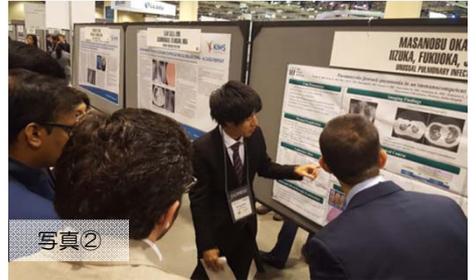
写真② 岡久先生は初参加で緊張していましたが、精一杯やりきりました。

写真③ 国際学会の合間にナイアガラの滝へ。こうした非日常を体験できるのも国際学会の魅力のひとつです。

写真④ 11月にシドニーで開催されたAPSR (アジアの学会) では、後藤先生が「Travel Award」を受賞されました。素晴らしい!!



写真①



写真②



写真③



写真④

「今年一番のビッグニュース!! 浅地先生、結婚!!」



いまや飯塚、筑豊地域の喘息診療を引っ張っていると言っても過言ではない、われらが浅地先生(呼吸器病センター呼吸器内科所属)が、この度2017年11月11日(ポッキーの日)に、結婚しました!!

お相手は、以前当院当科にも勤務されていた安田先生。遠距離恋愛もなんのその、数年来の愛をもらせ、めでたくゴールインしたわけです。

当日は、呼吸器病センターほぼ総出でお祝い、二人の人柄を体現したようなとてもアットホームな雰囲気、こちらも幸せな気持ちになりました。浅地先生、幸せのお裾分けをありがとう!! 末長くお幸せに!!

日頃より大変お世話になっております。浅地 美奈でございます。私事を記事にさせていただき大変恐縮なのですが、この度結婚しましたのでご報告させていただきます。これも先生方はじめ、筑豊の皆様が私を温かく見守り、そして医師としても人としても成長させてくださったおかげでございます。本当にありがとうございます。結婚式では呼吸器病センターの先生方に囲まれ、とてつもなく幸せな時間を過ごすことが出来ました。これからもますます精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

寒くなってまいりましたので、どうかご自愛ください。最後に、コントロール不良な喘息など困ったご症例ありましたらいつでもご紹介いただければ幸いです。

呼吸器外科 Topics 「低肺機能患者に対する術前呼吸リハビリテーション」



小館 満太郎
呼吸器病センター
呼吸器腫瘍外科部長

呼吸リハビリテーションによって低肺機能でも安全に肺切除が可能に

高齢化とCOPDの増加に伴い、低肺機能症例に対する術前呼吸リハビリテーションの重要性が増しています。2014年から2017年に施行した呼吸器外科手術のうち**1秒量 1000ml以下**

または**1秒率 40%以下**の低肺機能例10例に対して（在宅酸素2例）術前呼吸リハビリテーションを行いました。禁煙指導、気道クリーニング（去痰剤、抗生剤投与）、気管支拡張薬、リハビリテーションPT介入により呼吸訓練（腹式呼吸訓練、吸気筋訓練）、呼吸筋訓練（ピークフローメーターの貸出し・記録）、運動指導（全身ストレッチ）、歩行訓練（万歩計、階段昇降の記録）などを行いました。

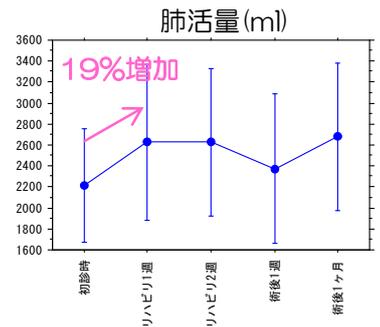
その結果、肺活量は2216mlから2600ml（**19%増加**）、1秒量は940mlから1100ml（**18%増加**）へ改善がみられました。また、6分間歩行試験でも歩行距離が360mから460m（**13%延長**）へ改善されました（図）。これらの変化は主に初回のリハビリテーションで効果が現れています。手術を行った後も、**呼吸器合併症や在宅酸素の導入はなく**、術後は8～18日（平均**13日**）で退院しました。

肺機能の低い患者さんでも呼吸リハビリテーションによって十分かつ安全に肺切除手術を行うことができますので、まずは当科へご紹介ください。

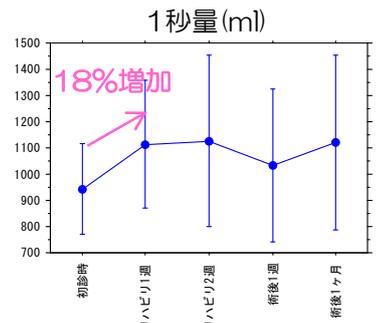
（以上の結果は第58回日本肺癌学会（横浜）で発表しました）



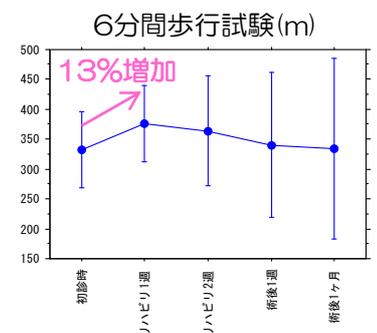
ピークフローメーター



コーチIIIによる吸気訓練



6分間歩行試験



コラム～わたしの趣味～



呼吸器内科 村上 行人

飯塚病院呼吸器内科後期研修2年目の村上 行人と申します。筑豊地域の先生方に置かれましては日頃よりたくさんの患者様を飯塚病院にご紹介いただき誠にありがとうございます。

仕事や勉強に追われる日々では、気がつけば夜が更けていることもしばしば。そんな私の癒しの時間、それは音楽に触れることです。

私は大学時代に軽音サークルに所属し、ギターを手に取り、医学の勉強そっちのけでバンド活動に明け暮れる毎日をご過ごしていました。コピーバンドが主体でしたが、オリジナル曲も作ったりしました。ライブや夏フェスにも何度も足を運び、モッシュやヘドバンで痛みとともに生の音楽を体に刻みつけておりました。医師になった現在ではギターを触る機会も激減してしまいましたが、相変わらず音楽に合わせて体を揺らしたい衝動を解消すべく、たまの休みにライブに行ったりしています。昨年は星野源のワンマンライブに行ってきましたが、昇り龍が如く人気急増中の星野源のライブはものすごい盛り上がりでした。一方で音楽教師である妻の影響もあって、最近クラシックに触れる機会も増え、昨年はフジコ・ヘミング、一昨年はマルタ・アルゲリッチのコンサートに行ってきました。直近ですぐに思いつくのは私の弟が自分の結婚式でお嫁さんと2人で弾き語ったゆらゆら帝国というバンドの「待ち人」という曲です。これから新しい生活が始まる2人の期待や不安がぎゅっと詰まった素晴らしい演奏でした。

インターネットを通じて世界中の音楽が簡単にイヤホンやスピーカーから流れてくる現代では、新しい音楽に出会って感動するなんてことはほとんどありませんが、生の演奏には例え真新しくなくてもなぜか心が動かされてしまいます。人生において音楽は絶対に必要なものではありませんが、そこにあれば平凡な人生でも少しは色づいてくれるのではないかと私は考えています。もし音楽好きな先生がいらっしゃいましたら患者さんの紹介状とともに、ライブのお誘いもお待ちしております。



外来担当表

※ 紹介状の宛先は【呼吸器病センター】、【呼吸器内科】、【呼吸器外科】いずれでも構いません。
 ※ 内科、外科どちらか迷う場合は【呼吸器病センター】宛にご紹介ください。○：初診 ●：再診

内科 医師	月	火	水	木	金	外科 医師	月	火	水	木	金
海老 規之	○/●	○	○	○/●	○	大崎 敏弘	○/●				○/●
飛野 和則		○/●	○/●		○/●	小舘 満太郎			○/●		
宮嶋 宏之				○/● (第2・4週)	○/●	宗 知子				○/●	
靄野 広介	○/●					安田 学		○/●			
井手 ひろみ	○/●	○/●									
浅地 美奈		○/●	○/●								
神 幸希				○/●							
西澤 早織		○/●	○/●								
吉峯 晃平					○/●						
棟近 幸					○/●						
末安 巧人				○/●							
後藤 夕輝	○/●										
村上 行人				○/●							
山本 英彦			●								

日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医4名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医2名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医1名

呼吸器内科 専門外来のお知らせ

呼吸器内科では、喘息、COPD、間質性肺炎の患者さんを対象に、専門外来を始めました。これらの疾患の病勢評価、治療薬の調整などを検討される患者さんがいらっしゃるようでしたら、ぜひ呼吸器内科外来へご紹介ください（呼吸器内科外来をご紹介いただいた後、各専門外来へ振り分けます）。

2017年7月～10月の主な学会発表

第50回日本胸部外科学会九州地方会総会（7/27～28、福岡）

- ・ 気胸が契機で発見された先天性気管支閉鎖用の1例（小山 倫太郎）

第21回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会（9/8～9/9、東京）

- ・ 胸腔内圧測定を用いた、自然気胸に対する脱気治療成否の予測（飛野 和則）

第79回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会（9/22～9/23、大分）

- ・ 自然気胸に対する脱気治療における胸腔内圧測定の有用性（飛野 和則）
- ・ 当院での気管支サーモプラスティ施行症例の検討（浅地 美奈）

第58回日本肺癌学会学術集会（10/14～15、横浜）

- ・ 当院におけるニボルマブによる薬剤性肺障害（海老 規之）
- ・ 肺多形癌切除症例の検討（小山 倫太郎）
- ・ 肺原発紡錘形細胞肉腫の一切除例（宗 知子）
- ・ 術前呼吸リハビリテーションを行った肺切除例の検討（小舘 満太郎）

第45回日本救急医学会総会・学術集会（10/24～10/26、大阪）

- ・ 少量の石灰硫黄合剤摂取で多臓器不全となったが救命しえた一症例（末安 巧人）

第11回 筑豊呼吸器RENKEIの会

日時 2018年1月23日（火）18:50～20:30

場所 飯塚医師会館 講堂 飯塚市吉原町1-1

TEL 0948-22-0165

報告1 18:50～19:20 | 呼吸器外科より報告

飯塚病院 呼吸器病センター 呼吸器外科 大崎 敏弘

報告2 19:20～19:50 | 呼吸器内科より報告

飯塚病院 呼吸器病センター 呼吸器内科 飛野 和則

講演 20:00～20:30 | 未定

飯塚病院 呼吸器病センター 呼吸器内科 未定

筑豊呼吸器RENKEIの会は年に3回開催しています。皆様からご紹介いただいた貴重な症例の報告、また、呼吸器疾患の中でも日常臨床に役立つ身近なテーマを毎回取り上げ、若手の先生にレクチャーをお願いしています。是非、ご参加ください。

いままで取り上げたテーマ

第4回：間質性肺炎、第5回：咳、第6回：肺炎、第7回：誤嚥、第8回：胸部レントゲン写真、第9回：肺がん、第10回：咳

ご参加いただける先生は、Meiji Seika ファルマ株式会社

（TEL：093-551-1830）までご一報いただくと幸いです。

～編集後記～

2017年4月に異動をお伝えしましたが、色々あり10月から半年間、また飯塚病院で働かせていただくことになりました。今号ではRENKEIの会や当センターの取り組みのみではなく、当院の臨床研修病院としての役割もお伝えさせていただきました。他科の先生との知識交換を行うことで、相互に発展していけるように尽力しております。たくさん抱えた患者さんにも臨機応変に対応していける環境を作っております。



西澤 夏将
呼吸器病センター
呼吸器外科医師



小山 倫太郎先生が2017年7月28日第50回日本胸部外科学会九州地方会総会において、「気胸が契機で発見された先天性気管支閉鎖症の1例」を発表、見事Case Report Award 優秀演題賞を受賞しました。おめでとうございます！